

国立研究開発法人  
国立国際医療研究センター病院

National Center for Global Health and Medicine  
http://www.ncgm.go.jp/

発行 連携医療ネット

住所 東京都新宿区戸山1-21-1

代表 TEL 03-3202-7181

FAX 03-3207-1038

地域医療連携室

直通 TEL 03-3202-8066

FAX 03-3202-1003



# 連携医療NEWS

## Vol.40 9月号

### 副院長あいさつ

#### 副院長

#### 廣井 透雄



平成28年4月1日付で国立国際医療研究センター病院副院長を拝命いたしました。医療安全、感染、バイオバンクを担当し、循環器内科科長、特別個室病棟医長も兼務しております。

当院の特徴は、国際医療、感染症、糖尿病、救命救急などのミッションを持つナショナルセンターでありながら、すべての診療科を持つ、特定機能病院であることです。産婦人科、小児から高齢者まで対応することができます。当院は原則として紹介制となっており、地域の開業の先生からご紹介いただいた患者さんは診断、治療が終了後、速やかに先生方に治療の継続のため逆紹介させていただく体制を整えております。

ワクチン接種などの海外渡航前、渡航後、外国人診療をトラベルクリニックで行っていましたが、昨年にトラベルクリニックに加えて国際診療部を新たに開設し、幅広く外国の患者さんを受け入れております。言語対応などで困難がある場合など、ご紹介ください（日本の保険証をお持ちでない場合は1点20円の自費診療）。外国の患者さんの受診も増えてきており、東京オリンピックに向けてさらに診療体制の充実を図っております。

感染症については海外からの帰国者などを対象に感

#### 内容

- ・副院長あいさつ・・・・・・・・・・・・・・1
- ・新任あいさつ・・・・・・・・・・・・・・2  
旬の味覚
- ・新任あいさつ・・・・・・・・・・・・・・3
- ・連携登録医のご紹介・・・・・・・・・・・・4

染症専門外来を開いており、マラリア、デング熱など幅広い感染症にも感染症専門医が迅速に対応し、最適な医療を提供しております。

ナショナルセンターのミッションのひとつとして、患者さんの血液、医療情報を収集するバイオバンクがあり、将来の診断や治療の研究に備えて着々と準備しております。バイオバンク受付で説明をいたしますので、賛同いただける方は診療の採血検査のついでに血液を15mlほど余分にご提供ください。

特定機能病院としては高度な医療安全体制が求められており、医療安全管理室には専従医師を含む4人の医師、医療安全管理者の専従看護師長、専従副師長、専任副薬剤部長、臨床工学技士主任、事務員が所属し、日々、院内全体の医療安全に目を配っております。全職員の医療安全教育、マニュアル、説明・同意書のチェックなどの業務を行っております。

循環器内科は救急車やご紹介により急性心筋梗塞を初めとして、多種多様な患者さんを受け入れており、年間の心臓カテーテル数は1000以上です。糖尿病などによる下肢血行障害は、心臓血管外科、皮膚科、糖尿病内分泌代謝科、リハビリテーション科とチームを組んで、カテーテル治療、バイパス治療、血管新生療法などを行っております。

特別個室病棟は16階にあり、ホテルのような落ち着いた雰囲気となっております。検査や手術、人間ドックなどで希望される場合は主治医にご相談ください。今後とも何卒よろしくごお願い申し上げます。

# 新任 あいさつ

## 泌尿器科診療科長

久米 春喜



2016年4月1日付で国立国際医療研究センター泌尿器科科長を拝命いたしました久米春喜と申します。これまで泌尿器科悪性腫瘍（腎癌、腎盂・尿管癌、膀胱癌、前立腺癌、精巣癌など）の診療、研究を中心とした仕事をしてまいりました。この分野は手術療法が中心となりますが、薬物療法についても経験は豊富です。この他、排尿障害、結石治療、感染症、腎不全（特に腹膜透析）も得意分野です。

最近の泌尿器科手術での進歩の一つにロボット支援手術（主に前立腺癌）が挙げられます。当院でもこの7月より前立腺癌に対するロボット手術が開始されました。前立腺癌は男性の癌の中で罹患数が最も多いことが報告されていますが（2015年予想では約98000人）、早期の段階で根治的な治療を行えば高い確率で治ることもわかっています。ロボッ

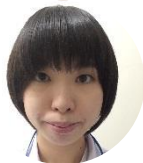
ト支援手術はこれまでの開腹手術に比べ、断端陽性率が低だけでなく、出血量が少なく、術後の尿失禁も少ないことが知られています。したがって、癌の根治性の面だけでなく、患者のQOLの面からも優れた手術であると考えられます。このような理由で日本でもロボット支援手術が急速に広まっています。私は、これまで100例以上のロボット支援手術に関わってまいりましたので、手術中のことはもちろん、術後管理の細かな点に至るまでよく知っています。当院症例の術後経過は、みな良好です。来年度からは腎癌の腎部分切除術についてもロボット支援手術を導入したいと考えています。

今後は医師会の先生方と連携を深く持ち、地域の方々に高度な医療、最善の医療を提供できるようにしたいと思います。特に低侵襲治療である腹腔鏡手術、ロボット支援手術は強く推し進めてゆきたいと考えております。泌尿器科疾患の診療で先生方のお役に立てるよう努力いたしますので、どうか国立国際医療研究センター泌尿器科をよろしくお願いいたします。

# 旬の味覚 さつま芋

## 管理栄養士

星野 智美



新物として9月頃から出回ってくる秋の定番さつま芋。おかずとしても、デザートとしても調理できる万能な食材です。食用として広まったのは今から300年ほど前の江戸時代。飢饉で苦しんでいた当時、その対策として青木昆陽という人がさつま芋栽培を幕府に進言したのがきっかけでした。

さつま芋の種類には様々あります。代表的なものとして、関東で人気の紅あずまは加熱するとホクホクとネトトリの中間タイプ。関西ではホクホクしたタイプの高系14号が多く作られています。甘くておいしいさつま芋としてよく耳にする鳴門金時は、高系14号を品種改良したものです。

さつま芋には風邪の予防や疲労回復、美肌効果もあるといわれているビタミンCが含まれています。一般的に

ビタミンCは熱に弱く、加熱調理によって失われてしまいます。しかし、さつま芋に含まれているビタミンCはさつま芋のデンプンによって守られるため、加熱しても壊れにくい特徴があります。また、体内のナトリウムを排出する作用を持つカリウムも豊富に含まれているので、高血圧予防にも効果があります。食物繊維もほかの芋類に比べると豊富に含まれているので、便秘予防に効果的です。

秋の味覚のさつま芋、ぜひ味わってみてはいかがでしょうか。



### 【材料】(2人分)

さつま芋	中1本(180g~200g)
砂糖	20g
牛乳	大さじ2
(1人当たり:エネルギー182kcal 塩分0.0g)	

### 【作り方】

1. さつま芋は皮をむいて5mm位の輪切りにする
2. 耐熱皿にクッキングペーパーをしき、さつま芋を並べてラップをかけ電子レンジで加熱する。(加熱時間は500~600Wで3~4分程度)
3. 加熱終了後すぐにさつま芋を裏ごしして潰す。(熱いので火傷に注意してください)
4. 裏ごしをしたさつま芋が温かいうちに砂糖、牛乳を入れよく混ぜる。
5. ラップで4を包み、形を整えたら完成。

## 新任あいさつ

### 内分泌代謝科医長

#### 植木 浩二郎



2016年4月1日付けで第一内分泌代謝科医長に着任しました植木浩二郎です。これまで東京大学の糖尿病代謝内科および分子糖尿病科学講座で糖尿病の診療や2型糖尿病の分子レベルでの成因解明や治療法の開発、そして全国の病院と連携した合併症予防のための多施設共同研究などに取り組んできました。また、日本糖尿病学会では、常務理事として糖尿病の診療の在り方や研究・施策への提言などを行って参りました。我が国の糖尿病のナショナルセンターであるNCGMでも2014年から糖尿病研究センター長を拝命しており、今年から当センターでの糖尿病の研究と診療の双方を融合させ、先進的で患者さん

に優しい治療と研究を展開していく所存です。

今後、内分泌代謝科では、肥満症の治療、高齢者のサルコペニアやフレイルの予防や治療などの分野に特に力を入れていきたいと思っております。糖尿病治療の進歩によって、定期的に通院して下さっている患者さんの合併症の発症は以前に比べて著明に減少しています。一方で、患者さんの高齢化や核家族化によって、前記の高度肥満やサルコペニアなどの老年症候群や社会的要因による治療困難例も多く認められるようになってきました。一人一人の患者さんの病態のみならず、社会的環境や嗜好にも配慮したきめ細やかな治療を、医療スタッフや他科の医師とのチームワークのもとに実施していきたいと思っております。また、患者さんがなるべく努力をしなくてもすむような治療法の開発を研究所とも連携して行っています。

どうぞ今後とも宜しくお願いいたします。

## 新任あいさつ

### 糖尿病科医長 研究所・糖尿病研究センター・ 糖尿病情報センター長

#### 大杉 満



2016年4月1日から糖尿病内分泌代謝科に着任しました大杉満（おおすぎみつる）です。専門は内分泌疾患、糖尿病治療です。

東京大学医学部を卒業してから、横須賀米海軍病院、ハワイ大学内科、ワシントン大学（セントルイス）内分泌科で研修して、帰国してから12年が経ちます。その間、東京大学医学部附属病院、三井記念病院、東芝病院に勤務し、インスリンを分泌する膵β細胞の基礎的な研究から、臨床試験や臨床研究へと研究の場を移してきました。

現在のセンター病院では、外来とともに入院患者を若いスタッフとともに診療しています。糖尿病に

限らず、診断や治療に難渋する内分泌疾患の症例は全般に受け入れておりますので、ご相談ください。バラエティに富んだ糖尿病や内分泌の症例を見る機会があり、それらを専門にしたい研修医の方々にとっても大変よい研修病院であると思っています。

もう一つ、私は糖尿病情報センター長として、糖尿病に関する情報を患者や家族にわかりやすく発信する役目があります。さらに医療従事者に糖尿病の最新の治療を伝える研修会や、論文情報などを伝える仕事を推進しています。ぜひホームページ（<http://dmic.ncgm.go.jp/>、「糖尿病情報センター」で検索できます）を御覧ください。

そして病院や研究所の様々な方々と協力して、糖尿病診療でどこまでが分かっている、不明なところはどこかを整理しています。その上でどのような研究を進めると糖尿病診療に役立つかを考え、さまざまな調査や臨床研究を企画しております。そういったことも通じて、多様な局面から患者さんに役立つ診療を行うことができると考えております。よろしく宜しくお願いいたします。

# 連携登録医のご紹介

診療科 内科、呼吸器科、心療内科、アレルギー科、  
抗加齢医療

住所 新宿区百人町3-28-5 グランドヒルズA

電話 03-5338-9955

FAX 03-5338-9956

診療時間 平日 9:00~13:00 15:00~19:00  
土曜 9:00~13:00

休診日 日曜・祝日・木曜午前・土曜午後

交通 JR大久保駅 徒歩5分

ホームページ <http://www.terao-clinica.com>

## 寺尾クリニック

院長 寺尾 一郎 先生



私は、寺尾クリニックの院長である寺尾一郎です。

当院の診療内容などについてご紹介致します。寺尾クリニックは、平成18年に総武線の大久保駅から徒歩5分の百人町に開院しました。開業して今年の10月で11年目に入ります。最近の医療は、検査結果だけ

を見て患者様を十分診察しないで、診断する傾向が非常に強いですが、当院では、患者様の訴えに耳に傾けて十分な診察（視診、聴診、触診など）を行い総合的に診断し、患者様との信頼関係を築き納得のゆく治療をしております。さらに患者様の経済的負担を減らすために院内処方を行い、先発薬品よりも後発薬品を多く投与するようにしています。待ち時間を減らし、時間を有効に使って頂くために予約制（ネット予約も含む）を取り入れています。診療内容は、呼吸器科、アレルギー科、心療内科、内科全般、抗加齢医療です。特に、呼吸器科で気管支喘息、COPD、睡眠時無呼吸症候群、禁煙外来、受動喫煙症、慢性呼吸不全に対する在宅酸素療法などを中心に診療をしています。心療内科においては、うつ病、不安症、不眠症、パニック障害、発達障害などの疾患を内服と認知行動療法（考え方を修正し、考え方をポジティブ変え、職場や社会に順応し生きてゆけるようになる方法）にて治療しています。その他に、アレルギー疾患（気管支喘息、花粉症、アトピー性皮膚炎など）を治療しており、更年期障害や肝機能障害に対してはプラセンタ注射をしています。さらに、抗加齢治療（男性の薄毛、女性の薄毛、高濃度ビタミンC点滴など）、ダイエット治療（内服、局所注射、点滴など）や美容（脱毛、フォトフェイシャルなど）にも力を注いでいます。最近、高齢化による歩行障害や認知症により通院が出来なくなった患者様に対しては、往診、訪問診療を行っております。今後は各専門領域の方と協力し地域包括医療に取り組み、病診連携を上手く活用し、患者様に満足頂けるような安心、安全な医療を提供してゆくつもりで居ります。最後に、国立国際医療研究センターの先生方には、いろいろお世話になって居りますが、今後とも宜しくお願い申し上げます。



待合室

診察室

ドリンクコーナー

外来診療時間 8:30~17:15

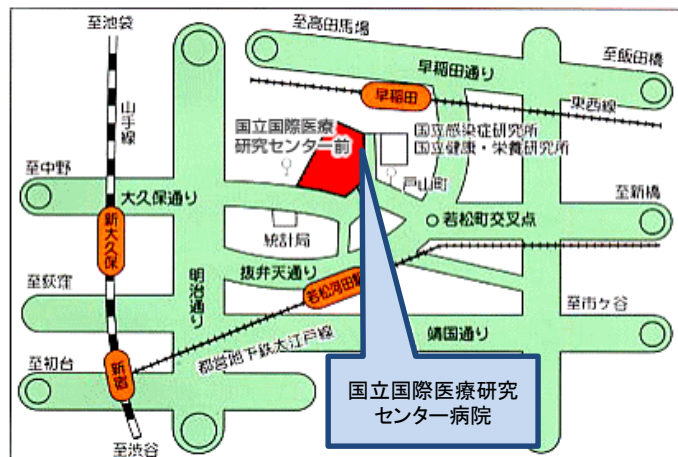
・初診受付 紹介状が無い場合 8:30~11:00  
紹介状が有る場合 8:30~14:00

ただし、形成外科、産婦人科、神経内科、整形外科、精神科、リハビリテーション科の6科および結核(疑いも含む)については「11時までの受付」となっています。

・休診日 土・日・祝日・年末年始

### アクセス

- ・都営地下鉄 大江戸線「若松河田駅」より徒歩5分
- ・東京メトロ 東西線「早稲田駅」2番出口より徒歩15分
- ・JR大久保駅又は新大久保駅より都営バス「新橋」行 国立国際医療研究センター前 下車
- ・新宿駅西口より都営バス「医療センター経由女子医大」行 国立国際医療研究センター前 下車



国立研究開発法人

国立国際医療研究センター病院

TEL 03-3202-7181 FAX 03-3207-1038 ホームページ <http://www.ncgm.go.jp/>

〒162-8655

東京都新宿区戸山1-21-1

